

# やまがた創生便り

第 11 号  
2018.11.27

山形県内の高等教育機関は、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に取り組みながら、地域の将来を担い活躍する力を持った地域人材の育成と定着を目指しています。「やまがた創生便り」では各高等教育機関および連携自治体が実施している地方創生に関する取組を報告いたします。



## 地域企業訪問研修

鶴岡高専では、県内企業の皆さまにご協力いただき、「地域企業訪問研修」を実施しております。

これは、本校のOB・OGが技術者として勤務する企業を訪問し、少人数での工場見学や交流・懇談を通して学生に実社会で役立つ社会人としての知識や技術者の心構えなどを学んでもらうことを目的に開催しているものです。

毎月様々な企業の皆さまにご協力いただき、9月28日には航空機内装品や生糸製品の製造を行っている松岡株式会社(酒田市字仲町)を訪問させていただきました。はじめに、会社の概要や生糸製品から航空機内装品の製造も行うことになったきっかけなど、歴史や沿革についてのお話を伺い、続いて工場内部を見学させていただきました。工場では普段は見ることのできない生糸製品の自動操糸機や航空機内装品の製造機械を拝見し、それぞれの工程についての説明を受けました。

その後、本校OB・OGの皆さんとの懇談の時間が設けられ、担当業務や製品についてのほか、就業の様子などについての質問にも答えていただき、学生には仕事や会社を知る良い機会となり、先輩から多くの刺激を受けた様子でした。

このような会社や地域を知る機会を大切に、自らの就業意識を深めるとともに地域理解の一助としてもらうことを期待しております。

ご協力いただいた企業の皆さまにこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。



工場内見学中の様子

## 受講学生の声

### 地域企業訪問研修 参加学生の感想

地域企業訪問研修に参加して、学生達からは次のような感想がありました。

- 企業の雰囲気を感じ取り、具体的に働く姿を想像することができました。進学を希望していましたが、地元就職も良い選択肢と思えました。
- 製品の品質向上やミスを防ぐための工夫が見られ興味深かったです。

- 少人数での見学のため、しっかりと工場を見ることができ、OBの方との距離も近く感じ質問しやすかったです。経験談を交えて答えてくださったので、とても参考になりました。
- 懇談会ではOBの方々から、入社理由や学生生活で力を入れるべきことを聞くことができ、とても貴重な時間でした。先輩方の経験を参考にして今後の行動を考え直したいと思いました。また積極的に参加したいです。



# 東北文教大学

## 谷柏田植踊の復活と継承活動

### 東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会

東北文教大学と南山形地区では、地域創生プロジェクト「沃野が広がる南山形～氷河期から刻む2万年の歴史と恵みの里～」を企画提案し、平成27年度に「未来に伝える山形の宝」という山形県の助成事業の採択を受けました。そのプロジェクト実践プランの1つには、谷柏地区に伝承されてきた「谷柏田植踊」の復活・継承活動が掲げられています。谷柏田植踊は20数年間にわたって中断していましたが、このプロジェクトの開始

により学生と地域在住者が協働で復活に取り組み、なんとか実現することができました。現在の学生は中太鼓1人、源内棒2人、早乙女5人、陰太鼓2人の合計10人。地域在住者は歌い手6人、笛1人、寄せ太鼓4人、褒め言葉（口上）1人の合計12人です。大学祭での披露を中心に、外部からの招聘公演が年間に数回あり、そのたびに下谷柏公民館において夜9時近くまで合同練習に励んでいます。



## 学生の声

### 谷柏田植踊の演じ手となって

東北文教大学短期大学部総合文化学科 2年 須藤大夢

私は谷柏田植踊のなかで「源内棒」という役割を担っています。源内棒とは、「中太鼓」を挟んで2人が長い棒を振りかざして舞う役割です。相手の源内棒役と左右対称にまったく同じ演技を繰り返します。演じる2人は演技上の所作やそのタイミングが合っていることが必要なのですが、それには普段の生活面でも気持ちが通じ合い、「息がピッタリ」ということが要求されると思います。幸いなことに、相手の源内棒役の人とは授業やゼミ、その他の学生生活でも一緒のときが多く、仲が良く信頼できる相手です。そういう常日頃からの土台があってこそ、私なりに納得ができる踊りが出来ていると思っています。谷柏田植踊の担い手の一人となってから、より充実した学生生活を送ることができていると感じています。

東北文教大学短期大学部総合文化学科 2年 野田琴未

私は、どちらかというと踊りや舞いなどは嫌いではないため、谷柏田植踊を演ずることにはそれほど抵抗感はありませんでした。現在は「中太鼓」の役割を演じていますが、踊り手8人の中でもこのポジションは前列中央です。ただでさえ目立ってしまいますが、さらに中太鼓の演技は他の7人とは違って、たった1人の演技なのです。踊り全体が引き締まるためにも大変重要なポジションと役割が与えられているので、大きく美しい振りはもちろんのこと、手足の上げ方やバチの回し方など、細かいところにも気を配って演じているつもりです。大学祭や外部公演のときは、地域の方々との合同練習を重ねますが、谷柏田植踊を通して地域社会との触れ合いが体験できることはとても社会勉強になっています。

## COC+連携自治体の取組

COC+連携自治体の地方創生や人材育成・定着に関わる取組を報告いたします。

### 鶴岡市

鶴岡市では、就職・進学を機に地元を離れた若者たちが生まれ育った鶴岡に戻り、地域の担い手となってもらうため、UIJターン就職を促進するイベントを開催しています。

東京都内や仙台市内で開催したイベントは、いずれも学生・社会人を問わず参加でき、市内企業の採用担当者と直接仕事内容や採用に関わる情報交換をすることができます。平成29年度は、3つのイベントに延べ110名の参加があり、11名の方が出展企業に就職されました。

また、平成30年度は山形大学農学部と連携し、2年生を対象にした「地元企業見学」を新たに実施しました。キャンパスがある鶴岡の産業の特色や企業活動を見学することで、

地元企業に関心を持っていただくとともに、自分に合った職業選択等について考えてもらうことを目的としたものです。今後も、首都圏や隣県において、若者定着を推進する取組を実施してまいりますので、ぜひご来場ください。



鶴岡地元就活応援セミナー（東京）

### 酒田市

酒田市は、まちづくりの様々な分野で、東北公益文科大学と連携した「大学まちづくり」を推進しています。平成29年度からは、東北公益文科大学を卒業した学生の地元定着を促進するため、奨学金の返還支援を実施しています。

○東北公益文科大学学生定住促進事業

- ・対象：東北公益文科大学（大学院）を卒業後、引き続き酒田市内に居住し、就業する方
- ・支援内容：卒業後5年以内の奨学金返還相当額を補助金として1人あたり最大540,000円（年間180,000円）交付

これまでに15名の卒業生を支援していますが、うち6名が県外からの移住者であり、若者の地元定着に向けたきっかけとなるよう一層制度の周知を図っていきたく考えています。制度の詳細については、酒田市企画調整課までお気軽にお問合せください。

（右記のQRコードを読み取ると酒田市のホームページにアクセスできます。）

東北公益文科大学卒業生に対する▶奨学金返還支援制度についてはこちらから



**平成30年度 COC+シンポジウム**

# オールやまがたによる若者定着を目指して

産学官のリーダーによる鼎談並びに若者定着取組事例の報告と県内就職者等からの報告をとおして、「オールやまがたによる若者定着」を考えていきます。

**主なプログラム**

- 山形県知事
- 山形県商工会議所連合会会長
- 山形大学長

**鼎談**

- 吉村 美栄子氏
- 清野 伸昭氏
- 小山 清人

**地域の取組報告**

- 坂本 静香氏
- 阿部 和人氏

**山形県内就職者・内定者の報告**

- 熊谷 崇史氏
- 佐藤 百恵氏
- 星 美沙子氏
- 薄井 恵氏

**2019 1/10 (木)**  
**13:30~16:45 (開場 13:00)**  
**会場 山形国際ホテル**  
**参加無料 (定員150名)**  
**【申込〆切】 12/20 (木)**

【お問い合わせ・お申込み先】 E-mail : cocsuin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

### 【事業の連絡先】

山形大学 COC・COC+推進室(発行) TEL : 023-695-6264, 6266  
 山形県立米沢栄養大学総務企画課 TEL : 0238-22-7330  
 鶴岡工業高等専門学校総務課 TEL : 0235-25-9453  
 東北公益文科大学地域共創センター TEL : 0234-41-1115

E-mail : cocsuin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
 E-mail : jimuyone@yone.ac.jp  
 E-mail : kikaku@tsuruoka-nct.ac.jp  
 E-mail : coc-staff@koeki-u.ac.jp

東北芸術工科大学法人運営課 TEL : 023-627-2089  
 東北文教大学運営企画室 TEL : 023-688-2298  
 米沢市総合政策課 TEL : 0238-22-5111 (内:2810)  
 鶴岡市政策企画課 TEL : 0235-25-2111 (内:525)  
 長井市地域づくり推進課 TEL : 0238-87-0817  
 遊佐町企画課 TEL : 0234-72-4523

E-mail : c\_o\_c@aga.tuad.ac.jp  
 E-mail : soumu@t-bunkyo.ac.jp  
 E-mail : chiiki@city.yonezawa.yamagata.jp  
 E-mail : n-chiiki@city.nagai.yamagata.jp  
 E-mail : kikaku@town.yuza.lg.jp



## COC+参加大学等の活動



### CO-OP教育

鶴岡高专では、学生が長期休暇を利用し同じ企業で繰り返し就業するCO-OP教育を行っています。授業で学んだ知識を活かし、

実際に現場で働くことで学生のさらなる専門知識と技術の習得、就業意識の向上へと繋がります。そしてCO-OP教育を通して、地域に貢献できる優秀な人材の育成と地元産業の活性化を目指します。



就業中の様子



### 「つどう・まなぶ・むすぶ」で まちと人を元気に

サテライト「やまがた藝術学舎」を新しい公民館モデルとし、コミュニティデザイン学科の

学生が中心となり、市民活動支援を行っています。「つまむ」でやまがたを元気にする」をコンセプトに、アートやデザインのソウゾウリョク(想像力と創造力)を生かして市民活動を行う人材育成と、自律的活動を支援するワークショップ等を運営しています。



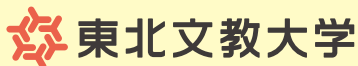
### 立谷沢活性化プロジェクト

東北公益文科大学鎌田剛准教授ゼミが、庄内町立谷沢地区において、学生ワークショップを主催しました。公益大の他、小樽商科大、

福知山公立大、京都産業大、島根大が参加し、「雪を活用した越冬野菜の産業化に高齢者が取り組む」といった、異なる専攻分野を掛け合わせた提案が多数出されました。



8月17日~19日にかけ合宿形式で実施



### 中国の伊春職業学院と覚書締結

「第29次県民のつばさ」と県代表团とともに、本学の鬼武学長らが黒竜江省伊春市を訪問し、現地にある伊春職業学院と学校間協力

の覚書を交わしました。本学では、介護福祉士を養成する人間福祉学科に加え、日本語を学ぶ留学生別科を有しており、中国の学生の日本語習得から日本の国家資格である介護福祉士の取得に向けた学校間協力を図ります。



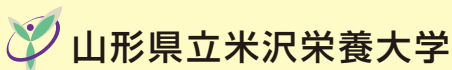
### 講義「地域で考える」

参加自治体(今年度は戸沢村)の課題解決に取り組むことにより少子高齢化、地域活性化の課題を認識する場を提供しています。役

場職員から提起された課題を受けて、村を訪れ、村の自然や事業の現状を把握しました。村の人口維持と活性化案をチームで考え、最後に村の人達に提案し、意見交換を通じて地方再生の難しさと現実の厳しさを学びました。



提案された解決案を評価する戸沢村の皆さん



### 食と健康の集い

臨床の管理栄養士を目指す学生が主体となり、地域住民の健康維持増進を目的とした、食のイベントを開催。参加者は、学生が考案し

た食塩相当量2g未満の理想的な食事を試食し、おいしく継続した減塩に取り組む方法について知ることが出来ます。学生にとっても、実際に食事を提供し、栄養指導を行う貴重な機会となっています。今年度も開催します。

